



IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



J U N E 2026

I S S U E # 50



In this issue:

編集者からのメッセージ	-	第 50 号発刊！	-	2
2028 年シーベルト賞候補者の推薦募集	-		-	4
関連学会だより	-	カナダ放射線防護学会	-	5
リバプールで開催された IRPA：第 7 回欧州 IRPA 会議	-		-	8
今後のイベント	-		-	11

翻訳：川口 勇生、編集：藤田 博喜、監修：中村 秀仁 この” IRPA 会報” の日本語訳は、IRPA の公式な翻訳ではありません。そのため、IRPA はその正確性を保証しません。またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Isao KAWAGUCHI, edited by Hiroki FUJITA and reviewed by Hidehito NAKAMURA. This Japanese translation of ”IRPA Bulletin” is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

編集者からのメッセージ

IRPA BULLETIN 第 50 号発刊！

12 年余り前、私たちは国際放射線防護学会 Bulletin の創刊号を刊行しました。わずか 4 ページの創刊号では、新たな Bulletin を発刊する目的とそのねらいを紹介するとともに、ケープタウンで開催予定であった IRPA14 国際会議に関する情報や、IRPA 理事会からの最新情報を掲載しました。

また、カメルーン放射線防護学会の IRPA ファミリーへの加盟を歓迎するとともに、福島第一原子力発電所事故後の放射線防護上の課題に関する日本保健物理学会の議論を紹介しました。さらに、今後開催予定であった 4 つの地域会議 (Regional Congresses) に関する暫定的な情報も提供しました。

IRPA Bulletin

March, 2014

No. 01



This Issue...

1. Welcome to the IRPA Bulletin
2. News from the IRPA EC
3. The 14th IRPA Congress
4. News from IRPA AS: CRPS and JHPS
5. IRPA Regional Congresses

Welcome to the IRPA Bulletin



It is a great pleasure to introduce this first issue of the IRPA Bulletin to all 18,000 or so members of the International Radiation Protection Association. IRPA strives to be the international voice of the radiation protection profession. This new quarterly bulletin, although aimed primarily at IRPA members, is an important part of fulfilling this objective.

Your IRPA CoP

Chair: Christopher Clement
Vice Chair: Bernard LeGuen

Bulletin Editors
Chunsheng Li, Ali Shoushtarian

Associate Societies Liaison
Adelene Gaw

Website Managers
Andy Karam, Chris Malcolmson

Social Media Managers
Sven Nagels, Chris Malcolmson

Media Reviewers
Melanie Rickard
Ralph Thomas
Sven Nagels
Young-Khi Lim
Duncan McClure
Daisuke Sugiyama

The renewal of the IRPA Commission on Publications (CoP) has focused on ways to help our members in all 49 Associate Societies learn more about what is going on outside their own countries and regions. Over the last year you may have noticed an overhaul of our website, irpa.net, making it easier and more intuitive to access the information you want. This includes the irpa.net news feed, featured on the front page of the website, and which is more active than ever before. We are also now visible in the social media landscape. You can like IRPA on Facebook, follow IRPA on Twitter, subscribe to the IRPA RSS feed, or register for email updates through irpa.net.

These new media channels are fantastic for rapid and frequent communication, but focus on relatively short messages. This Bulletin complements our other media tools. It is certainly less frequent, being produced quarterly, but this has the advantage of shining light on a few carefully chosen top stories, and in a bit more depth than a 140 character tweet allows. Another advantage is the potential reach, as the intention is that it be translated into many languages. Although English is the working language of IRPA, it is not the first language for many of our members. Our hope is that this Bulletin will help cross language barriers, even if only in a small way.

How is all of this possible? The answer is simple: we draw on the strength of our volunteer members. Members of the CoP come from Canada, France, Germany, Japan, Korea, UK, and the US. We have a crack team of media reviewers watching Associate Society publications and websites in English, French, German, Japanese, and Korean, and passing on items of broad interest to those who manage irpa.net, our social media, and of course this Bulletin.

Would you like to join the team? We need more media reviewers to cover other languages, and volunteers willing to translate this quarterly bulletin. If you are interested contact me at pub_dir@irpa.net.

Christopher Clement
IRPA Publications Director

International Radiation Protection Association

 <https://www.facebook.com/IRPA0>

 <https://twitter.com/IRPA>

 www.irpa.net

編集者からのメッセージ

IRPA BULLETIN 第 50 号発刊！



IRPA BULLETIN

For RP professionals, by RP professionals

ISSUE #19
October 2018
© IRPA

President's Blog

(Roger Coates, IRPA President)

What an interesting year! We have now had our four Regional Congresses – Latin America (Havana, Cuba), Asia/Oceania (Melbourne, Australia), Europe (The Hague, Netherlands) and finally the African Regional Congress in Tunis. These have all been incredibly successful, with a combined attendance of around 1500 delegates, which is heading towards 10% of the total IRPA community. In addition, I have been fortunate to visit the annual conferences of our RP societies in India, Israel, the UK and the US, which adds about another 2000 delegates to the list.

So, what comes out of all this? Well, it is clear that our profession has a lot of common challenges and common interests, some of which I will outline below.

There are concerns about the future of our profession – where are the next generation of RP professionals coming from? How do we attract enough people and make sure that they are competent? But whilst there are challenges, there is also hope. The number of young persons engaged in these congresses has been enormous, and their enthusiasm and willingness to engage is stunning. We have had regional launches of our Young Generation Network (YGN) at each Congress, and it seems to me that this is a very timely and successful development within IRPA.

この12年間で、Bulletinが少しずつ変化し、成長してきたことにお気づきの方も多いのではないのでしょうか。

創刊号の発刊以来、IRPAの活動全般にわたる幅広いテーマを取り上げてきました。ソウルで開催されたIRPA15国際会議、オランダで開催されたIRPA16国際会議、そして2028年にスペイン・バレンシアで開催予定の国際会議をはじめとするIRPA国際会議や、世界各地で開催された地域会議（Regional Congresses）を紹介してきました。また、IRPAの予算および財務運営に関する報告を行うとともに、執行委員会（EC）メンバー、IRPA賞受賞者、さらには将来を担う若手専門家の方々を紹介してきました。加えて、各タスクグループの活動状況や加盟学会（Associate Societies）の紹介などに加えて、多岐にわたる話題を取り上げてきました。

私たちは、Bulletinがこの間に成熟し、そして成熟に伴ってしばしば見られるように、その内容も充実し、紙幅も拡大してきたと考えています。その結果、より多くの情報を提供し、皆様にとってより有益な媒体となっていることを願っています。

さらに、IRPAウェブサイト、IRPAビデオ、IRPA報告書およびその他の刊行物、ニュース配信とあわせて、Bulletinは加盟学会および会員の皆様とのコミュニケーションを支える重要な媒体としての役割を果たしています。

Bulletin 第50号の発刊を祝うとともに、これから先もさらに多くの号を皆様にお届けできることを願っています。

2028 年ロルフ・M・シーベルト賞候補者の 推薦募集

ロルフ・M・シーベルト賞(Rolf M. Sievert Award)は、放射線物理学および放射線防護の先駆者であり指導的存在であった Rolf M. Sievert 教授の功績を顕彰し、放射線防護分野への卓越した貢献を称えるために授与される賞です。受賞者には、当該分野において卓越した業績を有する第一人者であることが求められます。

1973 年の IRPA 国際会議以降、各 IRPA 国際会議は、ロルフ・M・シーベルト賞受賞者による「シーベルト講演」をもって開幕することが慣例となっています。

これまでのシーベルト賞受賞者は以下のとおりであり、それぞれのシーベルト講演は [IRPA ウェブサイト](#)に掲載されています。

1973 Prof. Bo Lindell (Sweden)	2000 Prof. Dr. Itsuzo Shigematsu (Japan)
1977 Prof. W.V. Mayneord (United Kingdom)	2004 Engr. Abel J. Gonzalez (Argentina)
1980 Dr. Lauriston. S. Taylor (USA)	2008 Prof. Christian Streffer (Germany)
1984 Sir Edward Pochin (United Kingdom)	2012 Dr. Richard Osborne (Canada)
1988 Prof. Dr. Wolfgang Jacobi (Germany)	2016 Dr. John Boice (USA)
1992 Dr. Giovanni Silini (Italy)	2021 Prof. Eliseo Vañó (Spain)
1996 Dr. Dan J. Beninson (Argentina)	2024 Dr. María del Rosario Pérez (Argentina)

2028 年シーベルト賞は、2028 年 5 月 29 日から 6 月 2 日までスペイン・バレンシアで開催される次回の IRPA 国際会議 (IRPA17) の開会式において授与される予定です。

IRPA では、通常、国際会議の約 3 年前に、シーベルト賞委員会委員長を務める IRPA 副会長が、すべての IRPA 加盟学会の会長に対し、シーベルト賞候補者の推薦募集を行います。シーベルト賞委員会は、IRPA 加盟学会から推薦されたロルフ・M・シーベルト賞候補者の審査および評価を担当しています。選考手続きの詳細については、[IRPA 規則 \(IRPA Rules\) 附属書 D \(Annex D\)](#) をご参照ください。

2028 年シーベルト賞の候補者推薦依頼は、すでに全 IRPA 加盟学会会長宛てに送付されています。**推薦書の提出期限は 2026 年 9 月 29 日です。**

関連学会だより： カナダ放射線防護学会

著者：

Michèle Légaré： IRPA 加盟学会リエゾン担当、カナダ放射線防護学会国際連携委員会委員長、CRPA 前会長。

前オタワ病院理事兼放射線・レーザー安全管理責任者

Ali Shoushtarian： カナダ放射線防護学会（CRPA）理事

核物質および地域連携機関担当 放射線安全管理責任者（RSO）マネージャー



カナダ放射線防護協会（Canadian Radiation Protection Association：CRPA）の現役会員として、私たちの母国であるカナダからの近況を皆様にご紹介できることを大変うれしく思います。

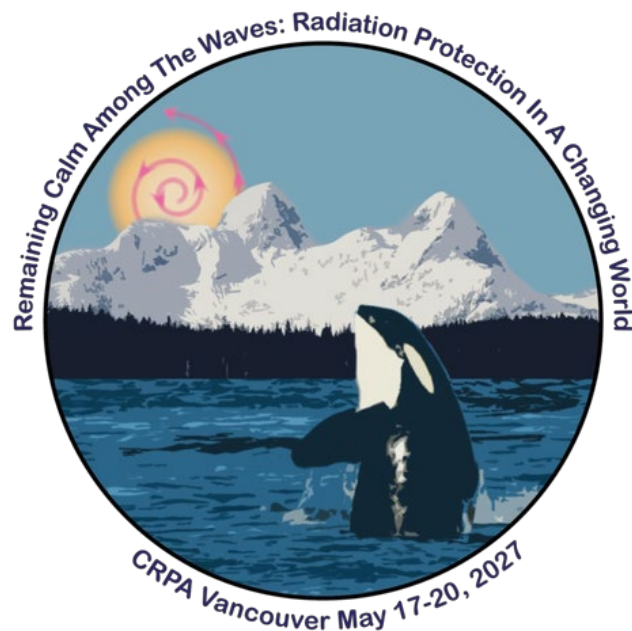
[CRPA](#) は 1979 年の設立以来、放射線による有害な影響から人々および環境を防護するための科学的知見の発展と普及、ならびに実践的な放射線防護手法の推進に取り組んできました。現在、CRPA には 300 名を超える会員が所属しており、その活動領域は病院・医療機関、大学、原子力発電・鉱業関連産業、規制機関、さらには連邦・州・地方を含む各政府機関など多岐にわたっています。会員の約 95% はカナダ国内を拠点としており、残る約 5% はオーストラリア、欧州、および米国などの海外会員で構成されています。

関連学会だより： カナダ放射線防護学会

私たちの直近の活動としては、2026 年にカナダ・サスカチュワン州サスカトゥーンで開催された「ラドンおよび放射線防護に関する 2026 年合同シンポジウム」が挙げられます。本シンポジウムは、カナダ・ラドン科学技術者協会（CARST）とカナダ放射線防護協会（CCRPA）の共同開催により実現したものです。

この協力関係により、放射線安全の向上と当分野におけるベストプラクティスの推進を使命とする両組織の専門的知見と広範なネットワークが結集されました。その結果、より幅広いテーマについて議論する機会が創出されるとともに、両団体会員間の連携が一層強化され、知識共有の促進および放射線防護に関する理解・意識の向上に大きく寄与しました。

ご自身で会合を体験したいという方は、来年のブリティッシュコロンビア州バンクーバーでの会合にご参加下さい！



CRPA は国際的な連携の強化に積極的に取り組んでおり、これまでに中国放射線防護学会（China Society of Radioprotection: CSRP）との間で協力覚書（MOU）を締結するとともに、直近ではフランス放射線防護学会（Société française de radioprotection: SFRP）とも同様の覚書を締結しました。これらの協力枠組みにより、双方の年次大会への相互参加が促進されるほか、ウェビナーやその他の交流活動を通じて協力関係のさらなる深化と知見の共有・相互学習が進むことが期待されています。

また、この1年間には、カナダ原子力安全委員会（Canadian Nuclear Safety Commission: CNSC）とフランス原子力安全・放射線防護機関との間で、原子力規制に関する協力および情報交換を目的とした協力覚書が締結されました。

その他の最近の成果として、以下が挙げられます。

- ・カナダ放射線安全研究所（Radiation Safety Institute of Canada: RSIC）との連携により、カナダの大学およびカレッジに在籍する対象学生を支援するためのデルマー・マコーマック・スミス奨学金が創設されました。2026 年度は3名の学生に対して奨学金が授与されました。

- ・放射線防護専門家、とりわけ保健物理分野の人材育成、教育および認証制度の発展に向けた協力を目的として、米国保健物理協会（American Association of Health Physicists: AAHP）との間で協力覚書（MOU）が締結されました。これにより、カナダにおける放射線防護専門職の能力向上と専門性の強化が期待されています。

関連学会だより： カナダ放射線防護学会



CRPA の 2026-2027 年度理事会は、このたび新たな任期を開始しました。写真左から順に、Josip Zic 氏（会長）、Rhonda Buchy 氏（専門能力開発担当理事）、Sheila MacMahon 氏（次期会長）、Ali Shoushtarian 氏（広報担当理事）、Celia Figel 氏（総務担当理事）、Tara Hargreaves 氏（前会長）、Jill Robertson 氏（渉外担当理事）、Sue Singer 氏（事務局長）、Tanya Vlaskalin 氏（書記）です。なお、Mojgan Soleimani 氏（財務担当理事）は欠席しました。

カナダについて：カナダは、東は大西洋から西は太平洋まで、また南の米国国境から北の北極海まで広がる広大な国です。その国土面積はロシアに次いで世界第 2 位であり、海岸線の総延長は世界最長を誇ります。また、最北端は北極点から 1,000 km にも満たない位置にあります。一方で、人口は約 4,200 万人にとどまり、その大半が米国との国境付近に居住しているため、国土の大部分は手つかずの自然環境に覆われています。カナダは豊かな天然資源に恵まれており、木材、石油、金、ダイヤモンドをはじめとする多様な資源を世界へ供給しています。また、これらに加えて幅広い工業製品の輸出国でもあります。さらに、カナディアン・ロッキー山脈、カナディアン・シールド、中央平原地帯、そして東西の美しい海岸線など、変化に富んだ雄大な自然景観を有しており、カナダは地球上でも屈指の美しい国の一つとされています。

政治・社会制度について、カナダは議院内閣制に基づく民主主義国家であるとともに、立憲君主制を採用しています。現在の首相はマーク・カーニー氏であり、国家元首はチャールズ 3 世国王です。カナダは 10 の州と 3 つの準州から構成されており、公用語として英語とフランス語の二言語を採用しています。フランス語は主にケベック州およびニューブランズウィック州で広く使用されており、カナダ国民の約 18%にとって第一言語となっています。一方、英語を主言語とする人口は約 54%を占めています。また、カナダは世界有数の多文化国家として知られており、英語およびフランス語に加えて、多様な先住民言語（ファースト・ネーションズ諸語）、中国語（標準中国語および広東語）、パンジャブ語、スペイン語、アラビア語など、数多くの言語が日常的に使用されています。

もしカナダを訪れる機会がありましたら、ぜひ各地の魅力を体験していただきたいと思います。歴史的な街並みとフランス系文化に触れるのであれば、ケベック市やモントリオールがお勧めです。また、経済・政治・文化の中心地としては、トロントや首都オタワを訪れる価値があります。さらに、バンクーバーは美しい自然環境と都市機能が調和した都市として知られています。このほかにも、カナディアン・ロッキー山脈地帯、大西洋岸の諸州（Maritime Provinces）、そしてブリティッシュコロンビア州には、ここではとても紹介し尽くせないほど多くの魅力的な訪問地があります。

リバプールで開催された IRPA : 第 7 回欧州 IRPA 会議

2026 年 6 月 1 日から 5 日に英国リバプールで開催された第 7 回欧州 IRPA 会議において、英国放射線防護学会（SRP）は大変優れた開催主体として参加者を迎えました。45 か国から 1,100 名を超える参加者を集めた本会議は、あらゆる指標において大成功を収めたといえるでしょう。以下に、参加した IRPA 会員による会議のハイライトをご紹介します。

NORM Task Group

自然起源放射性物質（NORM）に関する IRPA タスクグループからは、大きな成果として NORM ハンドブック最終ドラフト版の正式公表がありました。これは 8 年以上にわたる国際的な共同作業の集大成であり、その完成は大いに祝うべき成果といえるでしょう。タスクグループ共同議長を務めた Rainer Gellermann 氏（ドイツ）および Jim Hondros 氏（オーストラリア）、ならびにグループメンバーの皆様は、この成果を大いに誇るに値します。

本ハンドブックは、産業分野における NORM に関連する放射線防護上の課題に対する認識向上を図るとともに、規制要件や技術的課題に関する共通理解の醸成、および多様な教育目的への活用を目指して作成されたものです。その内容は、放射線防護の実務において日常的に直面する課題への対応を扱うだけでなく、新たに放射線防護分野に携わる実務者の教育にも資するものとなっています。また、適切なリスク認識を維持しながら実践的な解決策を提示するとともに、専門的な業務に従事する放射線防護実務者への支援も目的としています。

最終ドラフト版は [IRPA ウェブサイト](#) に掲載されており、あわせて公開されているコメントシートを利用して、意見や改善提案を提出することができます。正式版は Creative Commons ライセンスのもとで公開され、無償で PDF 版を入手できる予定です。また、ISBN を付与した冊子版も書籍販売プラットフォームを通じて頒布される予定であり、その売上の一部はモントリオール基金に寄付されます。



会議会場前で、印刷された NORM ハンドブック（ドラフト版）を披露する関係者

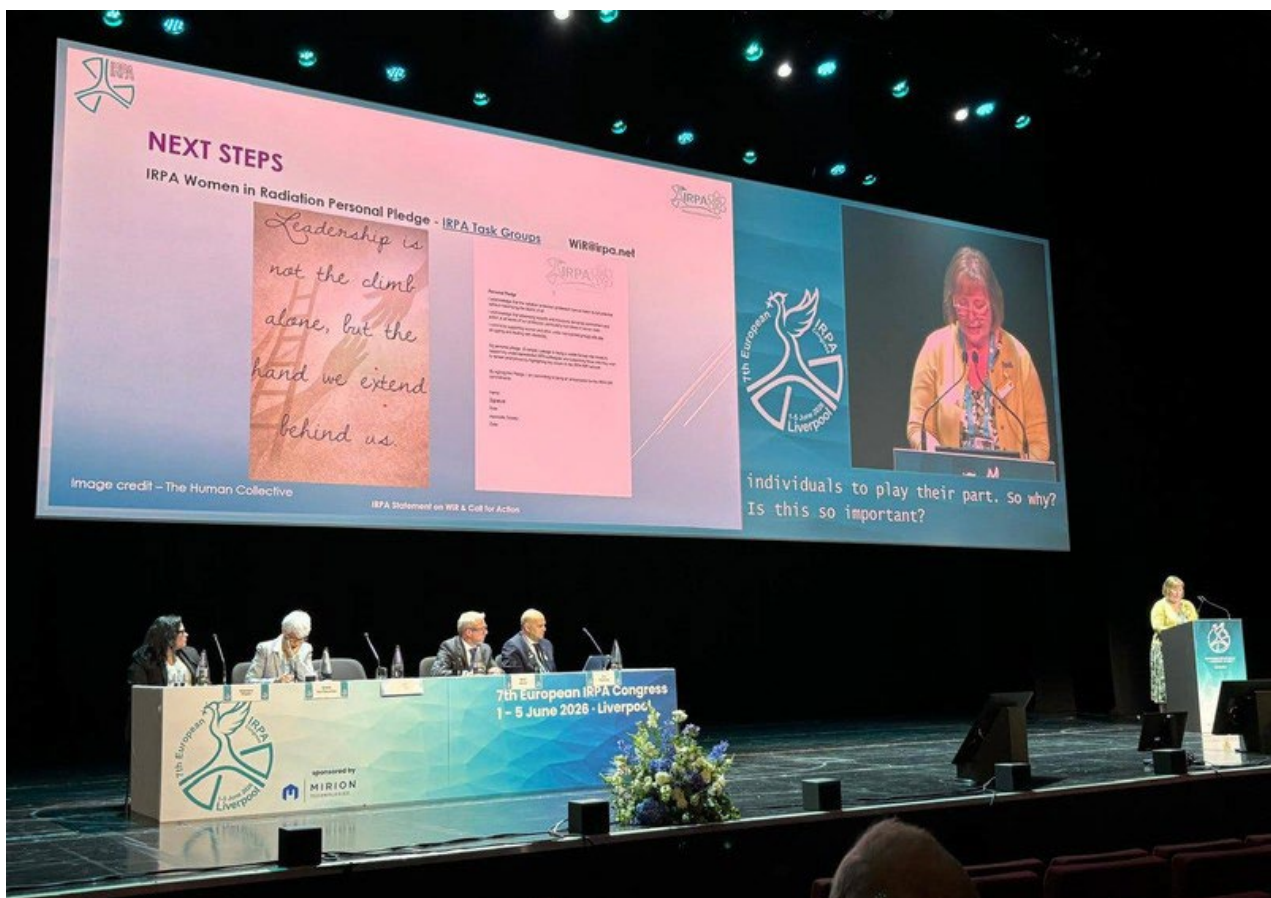
リバプールで開催された IRPA : 第 7 回欧州 IRPA 会議

Women in Radiation Task Group

Women in Nuclear (WiN) タスクグループにおいても、近年、重要な進展が見られています。2025 年後半には、同グループにより「放射線分野における女性に関する IRPA 声明 (IRPA Statement on Women in Radiation)」および「行動への呼びかけ (Call for Action)」が公表されました。この声明は、放射線防護分野における女性の貢献に対する可視性と認知度の向上を図るとともに、次世代の女性専門職人材を鼓舞し、その育成を促進することを目的としています。

これらの内容については、2026 年 3 月に開催されたウェビナーにおいてさらに詳しく紹介され、あわせて関連学会向けおよび個人による誓約も発表されました。これらの関連文書はすべて [IRPA ウェブサイトの WiR タスクグループページ](#) に掲載されています。また、同グループへの問い合わせは WiR@irpa.net 宛てに直接行うことができます。

さらに会議では、WiN タスクグループが推進する 8 つの重点的取組についても紹介されました。これらは、研修機会の提供、ウェビナーおよびワークショップの開催、人的ネットワーク形成の促進、研究助成・資金支援における公平性の確保、育児支援、国際協力の推進、職場における制度・方針の改善、ならびにアウトリーチ活動を対象としています。最後に、現在策定が進められている新たな取組として、IRPA WiR 憲章 (IRPA WiR Charter)、IRPA WiR 個人誓約 (IRPA WiR Personal Pledge)、および IRPA WiR バッジ (IRPA WiR Badge) が紹介されました。



リバプールで開催された IRPA : 第 7 回欧州 IRPA 会議

Education and Training Task Group

本タスクグループは 2025 年に再設置され、IRPA 理事会委員である Hielke Freerk Boersma 氏が議長を務めています。IRPA は、教育・訓練が効果的な放射線防護および強固な放射線防護文化の基盤であると認識しています。特に、近年の原子力利用の再興、人材の高齢化、医療分野での放射線利用の拡大、さらには世界各地域における放射線防護に関する認識や理解の格差といった状況を踏まえると、その重要性はますます高まっています。



Hielke Freerk 氏は、新たに設置された放射線防護教育・訓練タスクグループの活動状況について、関連学協会フォーラムおよび学術プログラムの双方において報告を行いました。特に、同タスクグループのもとで活動する 3 つのワーキンググループの進捗状況が紹介されました。主なトピックとして、今後開催が予定されている IRPA リフレッシャー・ウェビナー・シリーズや、EUTERP Foundation との共催による第 10 回 EUTERP ワークショップの開催準備状況が報告されました。第 10 回 EUTERP ワークショップは、2026 年 7 月 7 日から 9 日までスイスのポール・シェラー研究所 (Paul Scherrer Institute : PSI) で開催される予定であり、テーマは「放射線防護における力量に基づくアプローチ」です。また、欧州 IRPA 地域会議に参加したタスクグループ欧州メンバーによる非公式の交流会も開催されました。さらに、本会議期間中ならびに会議終了後に、本タスクグループには新たに 3 名のメンバー推薦が寄せられました。



Education and Training Task Group コアメンバー

リバプールで開催された IRPA : 第 7 回欧州 IRPA 会議

Montreal Fund

IRPA 会議において毎回取り上げられる重要なテーマの一つが、モントリオール基金です。この基金は IRPA の最も重要な取組の一つであり、開発途上国の学生および若手専門家が IRPA 国際会議に参加するための支援に活用されています。

関連学協会フォーラム (Associate Societies Forum) では、モントリオール基金について活発な議論が行われました。寄付拡大に向けた様々な提案の中でも特に注目されたのは、IRPA17 の参加登録費に少額の寄付金を組み込むというアイデアでした。この提案については、IRPA17 の大会組織委員会と協議が行われ、その結果、正規参加登録者 1 名につき 10 ユーロ (約 11.6 米ドル) をモントリオール基金へ充当する仕組みが導入されることとなりました。仮に IRPA17 の参加登録者数が 1,000 名以上となれば、この取り組みにより 1 万米ドルを超える資金がモントリオール基金に提供されることとなります。

また、モントリオール基金へ寄付する方法はこれ以外にも数多く用意されています。同基金は、最終的には寄付者の皆様からの継続的かつ温かい支援によって支えられています。個人としても、[IRPA ウェブサイト](#)を通じて PayPal を利用した寄付を行うことができます。



Other Updates from the Associate Society Forum

- 多くの関連学協会ですでに導入されている企業会員および団体賛助会員制度について、その導入の可能性が検討されました。なお、本制度の導入には、次回の IRPA 国際会議における総会の承認が必要となります。
- IRPA の倫理綱領に関する改定案が提示され、内容の更新および軽微な修正について説明が行われました。
- 非電離放射線タスクグループでは、非電離放射線分野の専門家を対象として、公衆の認識への対応や科学的誤情報への適切な対処に関する勧告の策定を進めています。

リバプールで開催された IRPA : 第 7 回欧州 IRPA 会議

最後に、IRPA 会長のクリス・クレメント氏による歓迎挨拶をご覧になっていない方のために、その内容をご紹介します。

親愛なる同僚の皆様へ

IRPA 会長として、第 7 回欧州 IRPA 地域会議の開会にあたり、皆様にご挨拶できることを大変光栄に、またうれしく思います。

はじめに、本会議の開催に尽力された英国放射線防護学会をはじめ、各種委員会、ボランティア、スポンサー、講演者、そして参加者の皆様に深く感謝申し上げます。このような会議は自然に実現するものではありません。その実現の背景には、長年にわたる献身的な取り組み、綿密な準備計画、そして専門家としての貢献があります。IRPA を代表して、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



本会議のテーマである「放射線防護における連携の促進」は、まさに IRPA の使命の中核をなすものです。IRPA は、放射線防護に携わる人々の国際的な協力と連携を促進し、最終的には人々と環境の防護に貢献するとともに、人類の利益のための電離放射線および非電離放射線の安全な利用を支援することを目的としています。

放射線防護は、科学的知見、経験、専門的判断、そして社会からの信頼の上に成り立っています。そして、これらはいずれも単独で育まれるものではありません。私たちの専門分野は、国境を越えた連携、専門領域間の協力、産業・学術・規制など異なる分野の協働、世代を超えた知識の継承、さらには多様な実務環境で活動する専門家同士の交流によって支えられています。

欧州は長年にわたり、放射線防護の科学、実務、規制、教育、そして国際的な対話の発展において世界を先導してきました。しかし、欧州 IRPA 会議の価値は欧州地域にとどまるものではありません。本会議で交わされる議論は、この地域を越えて広く影響を及ぼしています。放射線防護が今後どのように発展していくべきか、また、科学的妥当性、実践的有用性、倫理的基盤、そして社会からの信頼をいかに維持していくべきかという世界的な議論に、本会議は重要な貢献を果たしています。

まさにその点において、IRPA は極めて重要な役割を担っています。IRPA は単に関連学協会 (Associate Societies) の連合体ではありません。放射線防護の専門家が自らの考えを発信し、互いの意見に耳を傾け、自らを省みて課題に挑み、そして学び続けるための場でもあります。

一方で、放射線防護分野は IRPA の正式な会員だけで構成されているわけではありません。関連学協会に所属していない多くの専門家も、日々、放射線防護の向上に貢献しています。私たちはそうした方々の経験や知見にも耳を傾ける必要があります。IRPA の責務の一つは、この輪をさらに広げ、放射線防護のあらゆる分野から得られる専門的知見が共有され、活かされる環境を整えることにあります。

リバプールで開催された IRPA : 第7回欧州 IRPA 会議

これは特に若手専門家にとって重要なことです。彼らは単に放射線防護の未来を担う存在ではなく、すでに現在の放射線防護を支える重要な構成員でもあります。若手専門家は新たな知識や技能、新たな価値観をもたらし、率直な問いを投げかける力を持っています。健全な専門職集団は、伝統や継続性を重視する一方で、新たな視点や建設的な挑戦も歓迎するものです。私は、本会議が若手専門家に対して、自らの意見を発信し、疑問を提起し、人的ネットワークを構築し、国際的な放射線防護コミュニティの一員として積極的に参画する機会を提供することを願っています。

モントリオール基金は、IRPA がこの目的を実現するために取り組んでいる具体的な支援策の一つです。開発途上国の若手専門家が IRPA 会議へ参加できるように支援することで、この基金は「一体性」という理念を実際の機会へと変えています。すなわち、会議への参加、人的ネットワークの構築、そして得られた経験や知見を各自の地域・組織へ持ち帰る機会を提供しているのです。私は、関連学会、その他の組織、そして支援可能な個人の皆様に対し、この基金への支援をご検討いただくよう強くお願いしたいと思います。より多くの若手の仲間たちが、この貴重な機会を共有できるようになることを期待しています。

IRPA が貢献できる最も重要な分野の一つは、放射線防護体系について、放射線防護専門家が自ら考察し議論する場を提供することです。ただし、IRPA の役割は ICRP の活動を重複して行うことでも、その立場を代弁することでもありません。IRPA の使命は、放射線防護専門家が放射線防護体系とその適用について、体系的かつ実践的、建設的な議論を行うことを支援することにあります。

放射線防護体系は、多様な分野・環境において活動する専門家によって日々活用されています。実務者は、その適用が円滑に行える領域と、適用が複雑となる領域をよく理解しています。また、どの考え方が十分に確立された価値を有しているか、あるいはどの部分についてさらなる明確化、発展、またはより効果的なコミュニケーションが必要であるかについても、実践経験を通じて把握しています。放射線防護は、科学的根拠のみならず、倫理的な考察にも支えられた高度な体系です。なぜなら、放射線防護では、科学的証拠、専門的判断、不確実性、便益、リスク、そして公平性といった要素のバランスを取ることが求められるからです。しかしながら、この体系が真に機能するのは、それが実際の現場で適用可能である場合に限られます。その意味において、放射線防護専門家の実務経験は極めて重要な役割を果たしています。



リバプールで開催された IRPA : 第7回欧州 IRPA 会議

したがって私は、IRPA 関連学会の皆様に対し、それぞれのコミュニティ内で、また可能な場合には学協会間で、放射線防護体系に関する議論の場を設けることを強くお勧めします。何がうまく機能しているのか、何が適用やコミュニケーションの上で困難となっているのか、何を維持すべきなのか、そして新しい技術、社会的期待、社会環境、実務上の課題からどのような新たな問いが生じているのかを考えていただきたいと思います。

その目的は、すべての学会が同じ結論に到達することではありません。重要なのは、放射線防護専門家から寄せられる主要な課題認識、懸念事項、知見、そして提言を IRPA が集約し、共有できるようにすることです。このため、Claire-Louise Chapple 氏が議長を務める放射線防護体系レビュー・タスクグループは、こうした考察や意見を集約するうえで重要な役割を担っています。

私はまた、IRPA タスクグループの活動を大変誇りに思っています。例えば、非電離放射線に関する近年および継続的な取組、「Women in Radiation」から発信された重要な声明、そして本会議において正式に公表される NORM ハンドブックなどが挙げられます。これらはいずれも、IRPA が専門家間の協力を具体的かつ有益な成果へと結実させている優れた実例です。

本会議は、IRPA のより大きな歩みの一部でもあります。本年後半には、中国・北京およびコロンビア・メデジンにおいて地域 IRPA 会議が開催される予定です。また、2027 年にはアフリカ地域会議の開催に向けた準備も進められています。これらの活動はすべて、2028 年にスペイン・バレンシアで開催される次回 IRPA 国際会議（IRPA17）へとつながる重要な流れを形成しています。これらは個別のイベントではなく、放射線防護の将来について継続的に行われる国際的対話を構成する相互に結び付いた取組なのです。

結びにあたり、皆様には本会議を最大限に活用していただきたいと思います。もちろん講演やセッションへの参加は重要ですが、それだけではありません。これまで交流のなかった参加者とも積極的に意見を交わしてください。他国や異なる分野で活躍する専門家との交流を深めてください。そして若手専門家を議論の輪に迎え入れ、困難な課題にも果敢に問いを投げかけ、実践的な経験を共有してください。さらに、それぞれの学協会、IRPA、そして国際的な放射線防護コミュニティを通じて、何を次世代へ引き継ぐべきかについて考えていただきたいと思います。

もし私たちがリバプールを後にする時、より強固な人的つながり、より明確な課題認識、新たな専門家としての自信、そして放射線防護が有する実践的・倫理的使命に対する一層深いコミットメントを得ることができたならば、本会議は欧州のみならず、国際放射線防護コミュニティ全体にとって大きな意義を果たしたと言えるでしょう。

IRPA を代表して、皆様の会議が実り多く、刺激に富み、そして有意義なものとなることを心より祈念いたします。

今後のイベント

次回 2026 年 IRPA 地域会合のご案内



AOCRP7
7th ASIAN AND OCEANIC CONGRESS ON
RADIATION PROTECTION

**Towards a Better Home:
Unlocking the Potential of Nuclear Safety and
Radiation Protection in the Asia-Oceania**

Sep 8-12, 2026 Beijing, China

Hosted By China Society of Radiation Protection(CSRP)

The banner features a large, stylized illustration of the Temple of Heaven in Beijing, China, set against a warm, orange-toned background. The temple is depicted with traditional Chinese architecture, including a multi-tiered blue roof and white walls. In the top right corner, there are two logos: the IRPA logo and the CSRP logo. The text is arranged in a clean, modern layout with a mix of bold and regular fonts.



XIII Congreso Regional de
Seguridad Radiológica y Nuclear

XI Congreso Regional IRPA

18 al 22 de Octubre de 2026
Centro de Eventos Fórum UPB
Medellín-Colombia

The banner has a dark blue background with a subtle pattern of white dots, resembling a night sky. On the left side, there is a circular graphic showing a cityscape (Medellín) with colorful, glowing orbits around it, suggesting a scientific or technological theme. The text is white and bold, providing clear information about the congresses. The overall design is professional and modern.

ニュース&行事の予定をお送りください!

共有したいニュースはありますか? 下記までお送りください:

cop@irpa.net

IRPA NewsとIRPA 会報でご紹介します。会報の記事は通常、200～300語と画像です。

ソサエティスポットライトでは、加盟学会からの最新情報を募集しています。貴学会の活動をお知らせください。

会合、会議、一般的なイベント、または良いニュースはいつでも大歓迎です!

IRPA 出版委員会:

IRPA コミュニケーションオフィサー: Dave Niven 氏

会報編集部: Andrew Karam 氏, Dave Niven 氏

関連学会リエゾン: Michèle Légaré 氏

ウェブサイト管理者: Dave Niven 氏

ソーシャルメディアマネージャー: Sara Dumit 氏 & Dave Niven 氏

